

「賑わいの場もっけ」を作ろう

C1240753 齋藤 亜希那

テーマは、「利用者のニーズに応える新しいコンビニを提案する」である。

現在の大学内にあるコンビニは、平日の10時～16時の営業で、商品のバリエーションはお菓子からご飯ものまでさまざまとなっている。そこで、コンビニに対する利用者のニーズを調査した。よく大学内のコンビニを利用する知人のYさんに尋ねたところ、

①営業時間を増やしてほしい。

②土日、祝日などの休日も営業してほしい。

③ATMを設置してほしい。

④もっと値段を安くしてほしい。

⑤もっと行きたいと思えるような場所になるといい。

というニーズがあることが分かった。このニーズの中にある潜在的ニーズは、

①急に何かが食べたくなった時などに、早朝や深夜でもいつでも利用したい。

②勉強の合間に、休憩のためいつでも飲食物を購入したい。

③大学にはほぼ毎日通うため、大学で済ませ、ATMのあるコンビニなどに行く時間を省きたい。

④バイトをしながら一人暮らしをし、自分で生活費のやりくりをしている人が多かったり、毎日忙しく、ご飯を作ってくる時間がなかったりするため、コンビニでの出費をなるべく抑えたい。

⑤学生が行きたいと思うことができ、賑わいの場となるような魅力的なサービスを提供してほしい。

というものがあると考えた。そのため、私は、「学生生活の手助けとなり、大学内の賑わいの場となるコンビニにするためには」という課題を掲げた。そこで考えた理想のコンビニが、

①24時間営業している。

②土日、祝日も営業している。

③ATMが設置されている。

④学生にとって良心的な価格で販売されている。

⑤イベントやキャンペーンなどを頻繁に実施している。

である。これらのようなコンビニになることで期待される効果は、

①コンビニが24時間営業していることによって、必要な文房具や食料が買えて勉強中の気分転換がしやすくなるため、大学で早朝や深夜まで勉強しようとする気になる。

②今まで休日に大学へ勉強しに行っても、コンビニが営業しておらず不便なため、行

くのを断念した人もいると考えられるが、休日も営業していることによって、家などではなく大学でも勉強をする気になり、勉強の頻度が増えるようになる。

③今まで、ATMまで時間をかけて行かなければならなかつたが、大学内のコンビニにATMが設置されることによって、ATMまで行く時間が省け、時間を有効に使うことができるようになる。

④学生にとって良心的な価格で商品が販売されていることによって、昼食などにかける出費を抑えることができ、その分将来に向けての貯金にあてられるようになる。

⑤現在も、曜日ごとに商品が割引されていたり、500円券プレゼントなどのイベントがあつたりしているが、「店員さんとのじゃんけんに3回連続で勝ったら10円引き」や、「30回利用した人にはお得なクーポン券プレゼント」などの、日頃から頻繁に行われるようなイベントやキャンペーンなどが実施されることで、利用したいと思う人が増え、学生がよく利用する賑わいの場となる。

などであると考える。このような理想のコンビニになることで、学生生活を手助けすることができ、大学内の賑わいの場となると考えた。